ＮＰＯ法人田村明記念・まちづくり研究会講演　　　　　　　2016/06/09

「スケッチブックから」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　正会員　遠藤　博

　田村明さんは「終活」をほとんどせず、多くの書籍と資料が自宅に残された。今までにそのほとんどが横浜市市史資料室に寄贈され公開されている。ただ残された資料があり、弟千尋さんから主に海外旅行のスケッチブックなどの資料をお預かりしている。

　作業をすすめるなかで、その一部をFacebookを通してホームページ上で公開している。

今回そのうち５９冊のスケッチブックと８冊のパスポートを整理したのでそれらをもとに１０分程度お話しし、スケッチの一部を紹介した。

1. 旅の始まり

1963年7月１1日横浜出国　9月1日羽田帰国

＜持ち出し制限＞Ｔ／Ｃ＄４５０ｃａｓｈ＄５０（￥180，000）

環境開発センター社員　　欧州・アジア・北欧

1. 長い旅路

1970年2月14日羽田出国1970年3月16日羽田帰国

　　　　　　　　Ｔ／Ｃ＄1200

地方公務員　　　　　　　合衆国・中南米

1974年8月21日　　ドイツ・デンマーク・カナダ・中国・タイ等

在職中

1981年６月１５日　　イラク……２００８年１月１９日　中国高崎（コウキ）

確認できたのは合計９７か国・地域（眞生子夫人によれば１３４か国）

３　なぜ旅を、スケッチを

　　他の兄弟にはない画才　　音楽は田村家に共通する趣味

　　５９冊のスケッチブック（自分の眼で見、感じたことを残したかった？）

　　・やや抽象的な画風が初期の絵には見える。

　　・徳島の旅行から始まったのか。

・自宅の周辺や浅間山の別荘

　　・なんでも関心を持って描く。

　　　　自然の風景（海、砂漠、山，緑、空）まち（裏街、教会、市場、市庁舎、港、舟）

　　　　遺跡（歴史、キリスト教関係、仏跡、古典、文化）

　　　　人物（ガイド、ＣＡ）　　簡単な会話や民族衣装の名称も

　　・ペンで下書きし、水彩の色付けする。忙しいと色付けできなかった？

　　　　一か所５分で１枚をスケッチ。帰国後色付け。

　　・好きなアングルは裏町の路地と額縁絵風パターン。

４　これから

　　千尋さんからお預かりしたもの　パスポート、スケッチブック、旅行メモ、予定表

　　　　　　　　　　　　　　　　　日本生命のときの機関誌、両親への手作り本